資料５

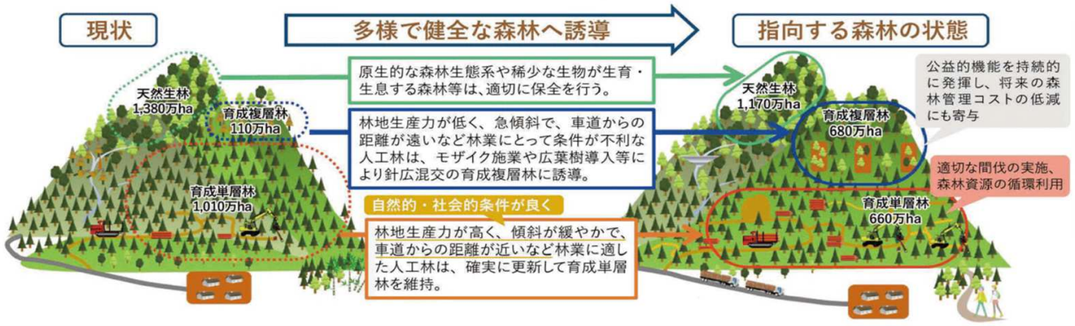
令和７年度第２回
市有林野管理経営審議会　補足資料

# 林地生産力などの条件に応じた市有林の施業イメージ

## １　背景

国では、森林の多面的機能が効果的に発揮されるよう、下図のとおり、林地の状態に応じて、多様で健全な森林へ誘導し、指向する森林の状態を示しています。具体的には、林地生産力が低く、急傾斜で路網からの距離が遠いなど、林業にとって条件が不利な人工林は、針広混交の複層林に誘導する一方、林地生産力が高く、傾斜が緩やかで路網からの距離が近いなど、林業に適した人工林は、皆伐・再造林を進めることとしています。

＜森林・林業基本計画の指向する森林の状態＞　(出典)林野庁　「令和5年度 森林及び林業の動向」より




## ２　「特に効率的な施業が可能な森林」について

再造林を促進させることを目的に、令和3年度より、林地生産力が高く路網から近い森林を「特に効率的な施業が可能な森林」として、市町村森林整備計画に定めることとしました。具体的な条件は下記の通りです。

＜設定条件＞　※北海道が示した区域設定の考え方
①育成単層林(林種が人工林でかつ樹種が単一)
②木材生産機能
③路網からの距離が400m以内

→ 市内の設定面積
298.41ha
うち、市有林は23.55ha
(八千代町、岩内町)

→「特に効率的な施業が可能な森林」は、市有林には一部しかなく、実際には当該森林以外の森林も再造林を進めるため、皆伐・再造林を進めるか、天然林化へ誘導するかは、**傾斜と路網からの距離**により、検討することとなります。

＜路網整備水準の目安＞　(出典)林野庁　「路網整備の考え方について」より

| 区分 | 作業 | 林道等 (m／ha) | 森林作業道 (m／ha) | 路網密度 (m／ha) | 最大到達距離(m) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 林道等から | 森林作業道から |
| 緩傾斜地 (0～15°) | 車両系 | 35～50 | 65～200 | 100～250 | 150～200 | 30～75 |
| 中傾斜地 (15～30°) | 車両系 | 25～40 | 50～160 | 75～200 | 200～300 | 40～100 |
| | 架線系 | | 0～35 | 25～75 | | 100～300 |
| 急傾斜地 (30～35°) | 車両系 | 15～25 | 45～125 | 60～150 | 300～500 | 50～125 |
| | 架線系 | | 0～25 | 15～50 | | 150～500 |
| 急峻地 (35°～) | 架線系 | 5～15 | — | 5～15 | 500～1500 | 500～1500 |

## ３　傾斜と路網からの距離による森林施業のイメージ

帯広市内の人工林1250.22haのうち、山岳地の森林面積は 732.86haで全体の約6割を占めており、そのうち、XI齢級以上の面積は343.24haで5割弱を占めています。

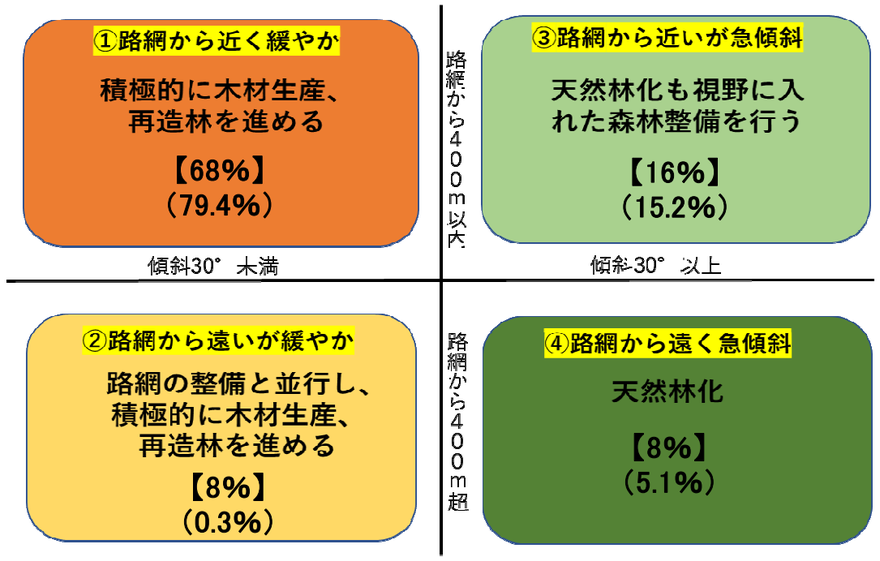
表1　市内の人工林面積の齢級・山岳地の状況

(単位:ha)

| | Ⅰ～Ⅹ齢級 | XI齢級～ | 合計 |
|---|---|---|---|
| (A)人工林 | 764.16 | 486.06 | 1250.22 |
| **(B)うち山岳地** | 389.62 | **343.24** | **732.86** |
| 構成割合 | 53% | **47%** | 100% |
| 割合((B)/(A)) | 51% | 71% | **59%** |

帯広市では、山岳地の人工林について、路網からの距離400m、傾斜30°を目安として、森林施業のイメージを以下の4区分に分類しています。路網から近く緩やかであるほど木材生産・再造林を進めることとし、路網から遠く急傾斜であるほど、将来的に天然林化を進めていくこととしています。

イメージ図




【　】は山岳地の人工林面積(732.86ha)における割合

(　)はそのうちXI齢級以上の面積(343.24ha)における割合

表2　山岳地の人工林面積における森林施業区分の状況

(単位:ha)

| | ① | ② | ③ | ④ | ③+④ | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 山岳地の面積 | 501.38 | 59.52 | **116.86** | **55.1** | **171.96** | 732.86 |
| 構成割合 | 68% | 8% | **16%** | **8%** | **24%** | 100% |
| うち、XI齢級以上 | 272.63 | 0.83 | **52.2** | **17.58** | **69.78** | 343.24 |
| 構成割合 | 79.4% | 0.3% | **15.2%** | **5.1%** | **20%** | 100.0% |

## ４　市内の人工林における天然林化を進める森林の割合

表2より、帯広市内の人工林のうち、山岳地の森林面積における24%、また、そのうちXI齢級以上の面積における20%が、天然林化も視野に整備を行う、又は、天然林化を進める対象として考えています。